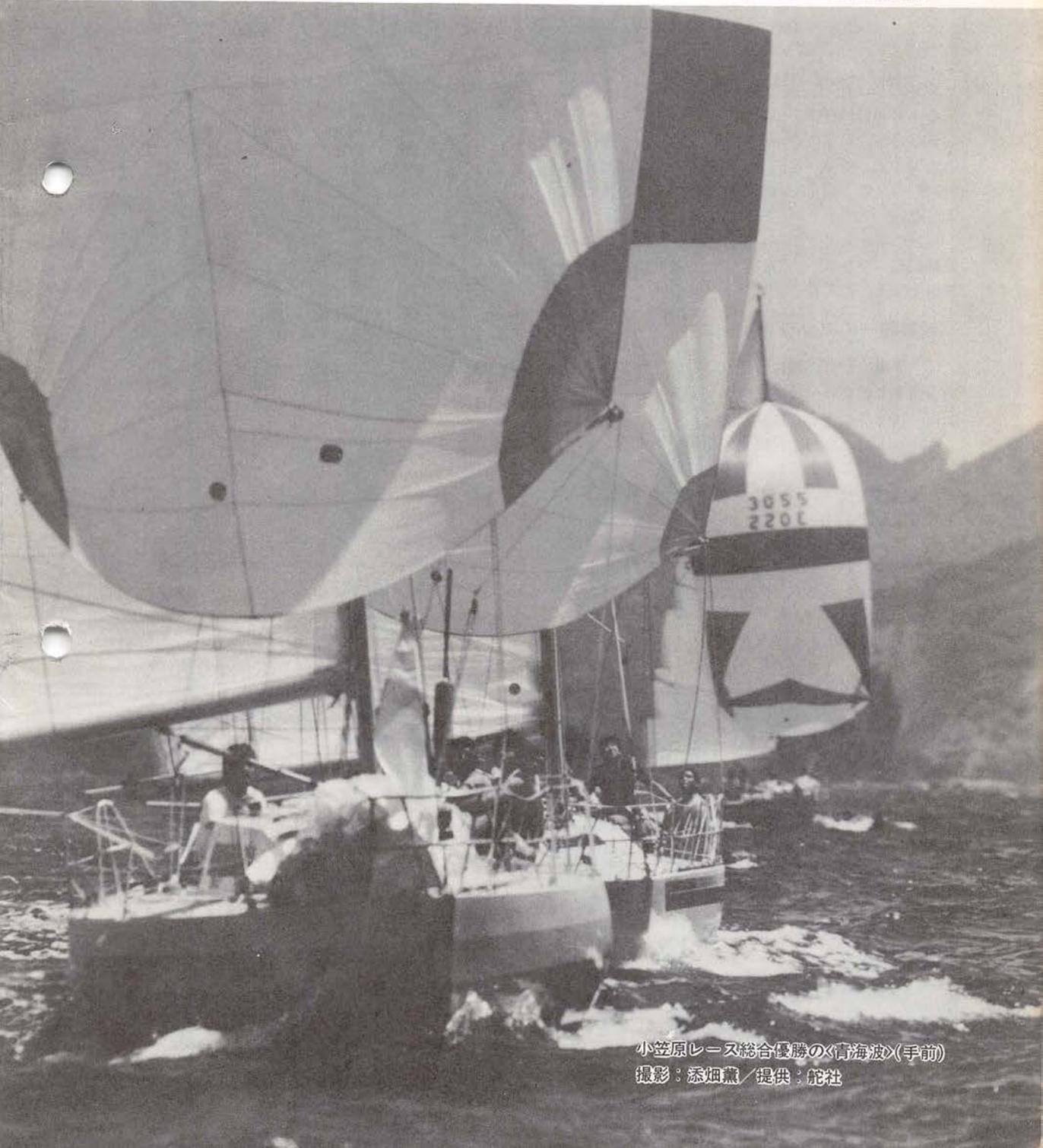


Offshore 6 1983

社団法人 日本外洋帆走協会発行 No. 99/300円

昭和58年6月15日発行(毎月1回15日発行)昭和52年7月21日 第三種郵便物認可



小笠原レース総合優勝の「青海波」(手前)

撮影：添畑薫 / 提供：舵社

釜山～博多110漕

第6回 アリランレース

総合優勝は<さくら>号(YA36)

NORC広報部広報委員長 堀田 総八郎

NORC 玄海支部主催の第6回アリラン・レースは、去る4月30日、日本を出発。5月3日正午スタートをしましたが、無風の中で、始まって以来の3日にわたる苦闘の末、博多フリートの<さくら>が、36時間44分38秒の2着、修正28時間42分55秒の総合優勝に輝きました。

注目のファーストホームは、これまた博多フリートの新鋭艇<マリエ>(VD41)が、35時間45分49秒で遠来組を押え、初入賞しました。

〈親善第一のアリランレース〉

「玄界灘や朝鮮海峡は、だれのものでもない！」との合言葉で始まった「アリランレース」も、今年で6回目。10年がたちました。

今年も各地から、新鋭艇や大型艇が集まり、エントリーは31艇になりました。数こそは第5回と同じながら、艇の大型化で、参加数は前回の20%増の220人にもなりました。

主催する玄海支部では、事前の準備のために何度も渡韓。毎度ながらそのしんどさに今回でやめよう……と言う声も出ましたが、西内海支部の熱意や、最近の韓国のヨットマン達の情熱に押し寄せ、「このレースは、単に主催者だけのものではない」と再認識。今後も続けていくことになりました。



ファーストホームー〈マリエ〉



親善パーティーで挨拶する釜山ヨット協会副会長の李芋植氏

〈アリランレースの歴史〉

今年で10年を迎えたこのアリランレースは、当初は「釜山レース」と呼ばれていました。主催も長崎の江良新氏を会長とする、九州外洋帆走協会(KOSA)の福岡支部でした。それまでに、単独で韓国へ渡っていたヨットマンの土産話の中から「どうせやるなら、日本で唯一の2国間、国際ヨットレースにしよう！」という話が、このレースの嚆矢となりました。

以来10年、49年の第2回開催後、金大中事件もあって、第3回は、昭和52年に、NORC 西内海支部から「のれん分け」してもらって玄海支部が発足したのを機会に、名称も「アリランレース」と変更しました。そして開催年も隔年とし、目的も日韓親善を第一に盛り込んだレースにすることになりました。

〈艇の大型化と女性の参加増える〉

始めは、1/4トンやミニトンが主流だったこのレースも、今回は、2トンクラスが6艇と、ぐっと大型化したのが目立ちました。西内海支部からは、DOU42の広島<KAZU>、同じく徳島<ビッグバル>、それに広島<美美>(パンナム優勝艇の改良型TA39)を中心に7艇が参加。これに対して玄海支部は、DOU42の<玄祐>、新鋭VD41の<マリエ>、コースレコードを持つ<ジグザグ>(F-38)など24艇がエント

リーしました。

話題はどの艇がファーストホームをするか、横山30の3艇や、ヤマハ30S 3艇など、同型艇同志の争いもまた興味あふくでした。

女性の参加も、3回連続出場の〈カラコルム〉艇長の片倉静江さん始め、夫婦参加2回目の〈キャピテーヌ〉の松雪艇長夫人真知子さんなど9名と、例年の3倍となりました。

最年少では〈KAZU〉の有田一郎艇長令息の一喜君(10歳)の参加など、ファミリー化が目立ちました。

〈釜山ヨット協会の5人が体験航海〉

このアリランレースの1年ほど前から、事務局が受入地の釜山へ何度もコンタクトをとりに出かけましたが、同じように韓国からも、何度も日本のヨットハーバーの施設視察に見えました。福岡市立の小戸ヨットハーバーにも、釜山市の港湾局の方、それに、釜山ヨット協会の役員も見え、福岡のヨット界も、横の連絡を



ヨット体験航海に参加した釜山ヨット協会のメンバー

とりながら案内をしました。そしてその話の中から、釜山ヨット協会のメンバー5人を、主催者の招待で、博多〜釜山間を体験航海に乗艇して頂きました。

〈メイ・ストームで、出国遅れる〉

4月29日午前。例年なら出国手続きを終えた艇から、次々と集結地对馬へ向けて出港しているところに、玄界灘には25 m/sの風が吹き荒れていました。980 m/bの小型台風並の低気圧が日本海で発達、フェーン現象をもたらして、東北各県に山火事を発生させました。風は、この低気圧めがけての高気圧からの吹き込みでした。

このため、小戸ヨットハーバーや、下関港に集結していた参加艇は出港できず、港に釘づけされたまま。この風を突いて、下関を出港した松山の〈スティング〉(YA33)が、響灘の白鳥付近でデイスラスト。下関港に帰ってきたと言う知らせが、午後2時に入りました。それでも全員無事という知らせに、福元玄海支部長以下胸をなでおろしました。夜になっても風は強まるばかり。午後9時に、气象台から天気図をとりよせ検討。午後11時に再三の艇長会議を開き、出発を30日の未明に決定しました。

〈灯火のページェントに感激!〉

心配された風もおさまり、各艇は次々と集結地对馬の比田勝をめざしました。そして5月1日0時、比田勝港を各艇が縦列隊で出港しました。30艇もの船が縦列行進するのは、昔の帝国海軍の観艦式ぐらいのものではないかなと思ひながら、高く低く輝くマスト灯や両舷灯の美しさに全員眠さを忘れ見とれたものでし

第6回アリランレース成績表

着順	艇名	艇種	所要時間		順位	フリート (ホニート)
			H M S	H M S		
1	マリエ	DV41	35-45-49	29-18-29	8	博多
2	さくら	YA36	36-44-38	28-42-55	①	"
3	玄祐	DOU42	36-54-47	30-24-45	17	"
4	ピッグバル	DOU42	36-55-02	30-34-12	19	徳島
5	KAZU	DOU42	36-55-18	30-40-54	20	広島
6	シグザグ	F38	37-51-09	31-58-40	26	博多
7	美美	TA39	38-24-08	30-54-49	25	広島
8	ドオモンジョ	DOU34	38-47-34	29-12-39	④	鹿児島
9	DR. HIRO	ED30	39-50-05	29-15-02	7	博多
10	キャピテーヌ	VDF9	39-51-06	29-40-49	13	"
11	寿宝	YA30S	39-57-58	29-25-51	10	室津
12	レディーバード	DOU30	40-05-37	29-08-38	③	博多
13	ボラリス	YA33	40-07-35	29-55-34	14	"
14	トロピカーナ	YO30	40-09-50	29-14-21	6	"
15	カザハヤ	YO30	40-16-45	29-14-09	⑤	松山
16	南風	YA30S	40-50-39	30-17-38	16	室津
17	レディーK	NA30	41-28-59	30-09-14	15	博多
18	鳴海屋丸	YA30S	41-35-21	30-53-17	24	"
19	フェアリーミホ	ED30	41-40-11	30-43-53	21	津屋崎
20	ピクニック	YA26P	41-42-47	29-32-43	11	博多
21	鯨	HOL25	42-03-31	29-24-41	9	"
22	カムカム	YA26C	42-09-00	29-05-15	②	"
23	海豹	SP27	42-11-02	29-38-33	12	"
24	有明	J24	42-13-05	30-33-11	18	"
25	ウインドエンジェル	KI30	42-13-31	30-46-56	23	室津
26	山笠	YA30III	42-39-39	30-46-47	22	博多
27	国士無双	YO30	42-45-24	31-18-23	29	広島
28	ムーンライトEXP	YA30C	42-56-03	31-04-17	27	山口
29	カラコルム	DOU30	42-59-02	31-06-26	28	博多
	畔奈	BW30	DNF	—	30	"
	スティング	YA33	DNS	—	—	松山



釜山港 (海洋大学前の泊地)

た。この瞬間が、アリランレース中の最高の光景で、「往路の回航に参加せずして、アリランレースを語るなかれ！」と言われる由縁でもあるようです。

例年のごとく、領海まで韓国の海軍に出迎えてもらう中を、5月1日午前9時、釜山港内の韓国海洋大学前の泊地に全艇アンカーをうちました。

〈ソウル五輪にける 韓国ヨットマンの熱い意気ごみ！〉

5月2日、宿舎の釜山ホテルには、釜山ヨット協会関係者や、韓国海洋大学の学生など、女性2人を含む20人ほどが集まり、レース参加の日本側と懇談会を開きました。一行の中には、キングセールの庄崎義雄氏や、玄海支部の計測員など専門家も揃えたこともあって、艇の性能やセールの製造などにもかなり突っ込んだ質問が出ました。また、レーティングの問題や、競技ルールの質問など幅広い質問が続きました。

また、韓国側では、現在クルーザーを持てる状況ではないので、次回のアリランレースには「日本から艇をチャーターできないか？」との質問もあり、玄海支部では、「韓国からの参加こそ待ち望んでいたことで、ぜひ検討したい。」と約束しました。

こうした質疑応答の中に、1986年のアジア競技大会、1988年のソウルオリンピックを控えた韓国ヨットマン達が、かつて日本のヨットマンが東京オリンピックを

前に抱いたと同じような熱い期待を胸に抱いている様子が、ひしひしと伝わってきました。

〈揺籃期の韓国ヨット界だが……〉

我々は、この会合に先だって、釜山周辺のヨット関係の施設を見学してまわりました。まず、セールメーカーですが、ここはまだディンギーだとか、ウインドサーフィンなどのセールを細々とつくっているだけでした。

まだ韓国ではヨットは贅沢品ということで、税金が62.5%もかかるそうです。うっかり自作をしようものなら、税務署から艇を追跡され課税されるとか……。それでもディンギーは釜山で30パイ、仁川付近で150パイ練習をしているとのことでした。

しかし干満差が9mもある仁川付近は、ヨット競技はできず、釜山市の広安里海水浴場沖が、ソウルオリンピックのヨット会場に決定されています。ここは釜山の中心部が近くで、海陸あわせて23万m²あり、ポンツーンで500隻は係留できる東洋一の大ヨットハーバーが建設されることになっています。第7回のアリランレースのころはその威容を現し、第8回のころはここに係留できるようになっていることでしょう。

〈微風の中、オールフェア〉

5月3日、釜山ヨット協会や、韓国海洋大学の協力で、釜山港入口にスタートラインがつくられました。

正午、南の風1m/sの中を全艇オールフェアでスタートしました。

しかしこの風はすぐにやんでしまい、全艇カームにつかまってしまいました。

ちょうど引き潮で、西から東へと全艇流され始めました。アンカーを慌てて打つ艇も、水深があり、何本ものロープをつなぎ合わせるため、船上は「てんやわんや」です。中には、近く五六島に押し流されて、ポートフックで岩を押しす寸前までいった艇もありました。

1024m/bという高気圧のど真中にいる我々にも、午後3時ごろには南の風2~3m/sが吹き始め、全艇クローズホールドで、対馬北端の三島灯台を目がけ、



釜山ヨット関係者との懇談会



レーススタート (5月3日12時)

走り始めました。その風もやがて西へシフト。リーチングとなり、夕暮時には、スピニングが次々と開かれています。

《国境の海、対馬海峡》

今、我々がひた走るこの海は、太古日本人の祖先が朝鮮半島から移住してきたと同じコースで、3世紀の魏志倭人伝にもそのことが記してあるところです。

思うにこの海峡があったために、神功皇后の任那出兵や、元の日本侵攻、そして秀吉の朝鮮出兵などという野望が潰えました。また、東郷元帥率いる帝国連合艦隊が、ロシアのパルチック艦隊を撃破、日本に勝利をもたらしたのもこの海でした。

近くは李承晩ラインのために、日本の漁船は随分と苦しめられました。そして国際情勢の緊迫で、アメリカ艦隊の遊弋や、ソ連軍艦の海峡通過など最近では日常的になっています。

往路はソ連艦が、我々の艇列の前を日本海から東支那海へと抜けてゆき、それをP2Vが偵察するという風景が見られました。またこれらは、対馬北端にある自衛隊の基地内に、釜山市内の一軒一軒が見える高性能昼夜兼用TV望遠鏡が据え付けられ全部ワッチされています。

このように、この海がある故に日韓の両民族に、ある時は憐憐をもたらし、ある時は友好を阻んできました。

この10年、我々は「一衣帯水」の隣国を遠く阻害してきたこの海を通して、近くて遠かった韓国との親善に力を注いできました。そして今、再来年の再会を約束して帰途に着いているのです。



表彰式：総合優勝（さくら）の艇長田中貞治氏

《対馬沖で再スタート》

5月4日朝。あたりが明るくなると、風につかまった艇団があちこちに数えられるようになりました。日がすっかり昇り、数を数えると、全艇が2～3浬の範囲にすっぽり入るところでじっとしたまま漂っています。

まず、東にいた4～5艇が、東南の沖ノ島方面へ動き出し、1時間ぐらいの間には全艇風を拾って走り出すという再スタートになってしまいました。

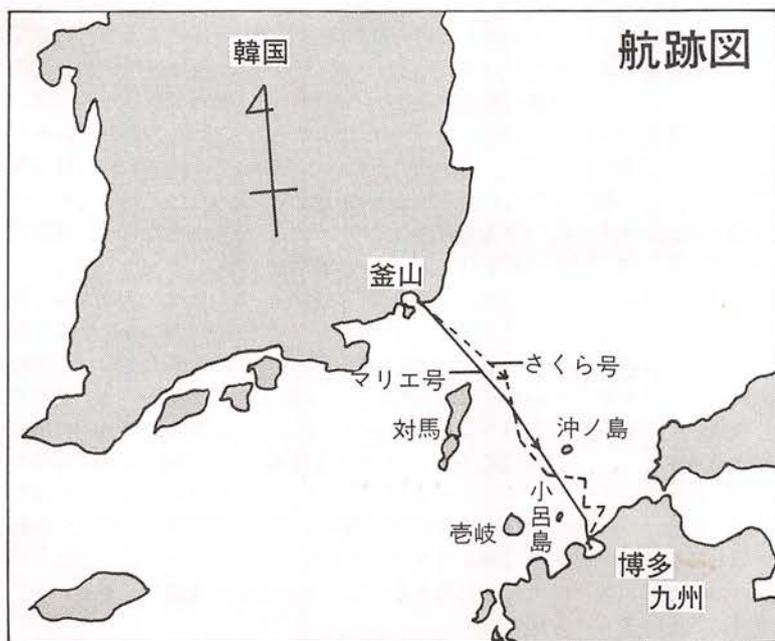
例年では全艇がゴールしている昼頃にやっと4～5 m/sの風が吹き出しましたが、風向は南で、クローズホールド。マストトップリグに有利となりました。

夕方には雨が降り出し、沿岸部が近くなるにつれて激しくなりました。小呂ノ島から博多湾内にかけては、視界はゼロに近く、灯台の視認は全くできなくなりました。おまけにこの付近は本船の航路になっているため、セールの陰からいきなり本船が現れるという始末で本部からは無線で、レーダー・リフレクターを掲げるように指示が出されました。D・Fも荒れてきた海ではあまり役に立たず、ロランを積んだ艇が、自艇の位置を正確につかみ、タックをしていきました。

その中を、まず地元博多フリートの〈マリエ〉が、ラム・ライン付近の細かいタックを繰り返しながら、最短コースを走って、4日23時45分49秒にフィニッシュ。続いてこれも博多フリートの〈さくら〉が、36時間44分38秒で入り、修正で総合優勝を飾りました。

西内海支部と、玄海支部の「アメリカズカップ」といわれるビッグボートのファーストホーム争いは、今回もまた玄海支部が勝ち、5連勝となりました。記録の方は、風のため、前回〈ジグザグ号〉がたてた13時間38分10秒のコース・レコードには遠く及びませんでした。

注目のピーターソン42の同型艇3艇の争いは、15秒間隔でフィ



ニッシュするというきわどい争いで、これまた地元の〈玄祐〉が勝ち、遠来組が涙をのみました。

修正順位では、ヤマハ26Cの〈カムカム〉が、初出場ながら2位にくい込み、同じく3位にはピーターソン30の〈レディーパード〉、4位には鹿児島島の〈どおもんじょ〉(DOU-34)と、並いる新鋭艇を押しつけて、重たいクルージングタイプの艇が上位を占めたのも、また今回の上りが多く、無風に悩まされた気象条件下での結果だったようです。

このほか、筑前大島方面で、海上に漂泊していた漁船のシーアンカーを巻きこんだ〈畔奈〉が、リタイヤしたのが惜しまれましたが、どの艇も人身事故はなく、無事帰港できました。

今回のレースの上位着順の艇は、そのほとんどがロランを積んでおり、視界が悪くなった時にその威力を発揮、勝負の分かれ目になったようです。

〈注意にまさる技量なし!〉

今回もまた事故がなく、玄海支部発足以来、否、それ以前からの無事故の記録を続けてきたわけですが、「安全第一」は、福元玄海支部長から年頭に出された今年の目標でもありました。

今回のレースにも当然安全面の注意が有吉安全委員長から喚起されました。

ハーネス、ライフジャケット着用はもとより、コックピットやコンパニオンウエイ入口のハーネス用アイの設置。パウ・ワーク用のコックピットから、パウまでのワイヤーの取り付け。メインコンパニオンウエイハッチは、艇の内外から開閉できる強固な固定装置を取り付けるなど、多項目にわたる安全備品や装置の取り付けが義務づけられました。また、この注意は通達だけでなく、有吉安全委員長みずから各艇の安全をチェック、安全検査合格証明書を発行、この証明がない艇のエントリーは認めないという強い方針で臨みました。

ただ苦言を呈するならば、往路は特に、比田勝～釜山間は機走して、全艇一緒に入港することを韓国側から通達されているため、機走力、つまりエンジンの整備は絶対の条件でしたが、博多～比田勝～釜山と走るうちに、エンジン不調の艇が続出。フィニッシュ後、税関棧橋まで機走する時まで6艇も不調を訴え、ほかの艇に曳航されました。これも、日ごろエンジンを長時間回して機走することが少ないために生じたことと思いますが、エンジン不調も一歩間違えば、人身事故へとつながる恐れがあることから、今後への大きな反省材料したいと思います。

〈アリランレースの国際化を!〉

ともあれ、友好と無事故の記録を伸ばして第6回アリランレースも無事終了しました。しかし友好には終わりがありません。それどころか、親善の風が今やっ

と日韓相方から吹き始めたばかりといっても過言ではないでしょう。

あと10年、あと20年後には、韓国のヨット界は、我々の想像も出来ないような素晴らしい発展が見られることでしょう。とともに、玄海支部ではこのアリランレースが今後ますます発展し、他のアジアの国々の人々を含めた大国際レースに発展していくよう、支部長以下一丸となって努力していきたいと念願しています。

また、優勝?

片倉 静江

去る3月中旬、琵琶湖で行われたJ-24世界選手権大会への日本選抜戦で、小戸ハーバーから出場した4艇中、〈ホンキイトンク〉と〈アポロニヤ〉が1位、2位をしめ、〈アルフィ〉、〈小梅〉もいい成績を取めた。これでホンキイとアポロは、6月、スウェーデンのマルモで開かれる大会へ出場することになる。

これをチャンスに、選手以外の人達も観戦をかねて渡欧する動きが出た。小戸ハーバーの、J-24花の5人娘も、外国での海戦の模様など、下見に行つては? いくつかそのチャンスが巡ってくるかもしれない。

外国人とレースをする場合、相手に呑まれることがある。4年に1回のオリンピックで、実力が出せないまま消えていく優秀な選手の何と多いこと! 負けてはいけない。「リメンバー、パールハーバー」などの意地悪な言葉を後で聞いたなら、黙って引き下がらず、振り返って「それとこれとがどういう関係がおりて?」と、問い正すべき。ましてや、あれは奇襲攻撃ではなかったと発表した人が現れたし、戦争を知らない世代の選手ばかりなんだから堂々と行こう。雰囲気には呑まれてはいけない。

九州の片田舎のミス蛙も、このチャンスにマルモからほど遠くない西ドイツのキール港に住む親友を訪ね、帰路ピレウス港(ギリシャ)に入港予定の〈貿易風〉の雀共に会つて……と企画をたてたが、ボーナス前だということに気がつきオジャン。また、6月は休暇が取りにくい。今回の全日本大会出場者の中にもサラリーマンが2～3人いるが、お遊びのヨットレースに出場するための休暇を許可した理解ある上司、いい同僚に囲まれたラッキーな人達、マルモでは大いに「実力」を発揮することを祈るのみ。優勝? もういい。倦きた!

第2回

J-24関西選手権レース報告

第2回のJ-24関西選手権レースは下記のとおり極めて盛大かつ好評のうちに終了しました。

〈日程〉

58年3月17日～18日 計測、登録

19日 第1レース、第2レース、パーティー

20日 第3レース、第4レース

21日 第5レース、表彰式

なお、第3レースと第5レースはノーレース

〈場所〉

ハーバー 大津市柳崎ヨットハーバー

〈支援者〉

レース委員長 森岡忠美（日本ヨット協会理事・日本J-24クラス協会準会員）外5名

ジュリー 秋山福夫（日本外洋帆走協会理事・日本J-24クラス協会準会員）

支援ポート 京洛日産・進藤翼（日本J-24クラス協会正会員）

計測 日産マリーン部・G23〔渡辺修治（囁）高橋太郎、金指昭郎、山下精一〕

陸上本部 日産マリーン部・G22 田原秀夫、外2名

〈支援ポート〉

コミッティーポート 辻村安太郎 1隻提供

プレスポート 京洛日産 2隻提供

マークポート マリンオフィス・フジタ 2隻提供

〈成果〉

■パーティー

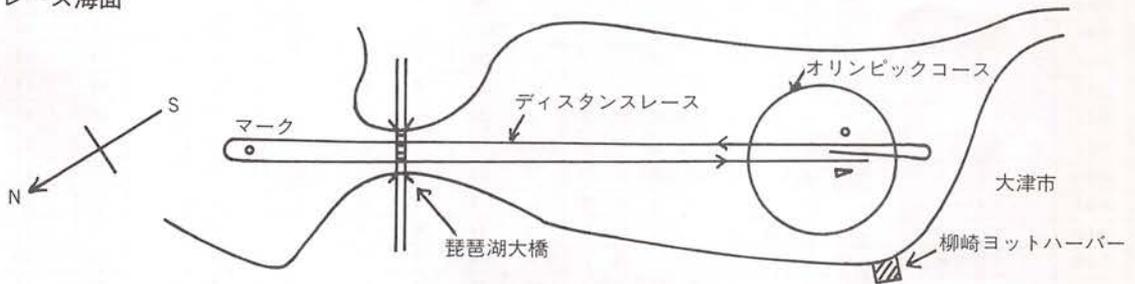
19日1800より琵琶湖ホテルにおいて150人が参加して盛大なパーティが開かれました。現地フリートによる企画で数々のアトラクションがあり、大いに盛り上がりました。

■レース

J-24, 31隻によるレースは、さすがに迫力があり、スタートからフィニッシュまで息をつかせず、終始緊張がみなぎっていました。その中でも、紅一点の〈レディースファースト〉チームが、強豪男性チームと覇を競うなごやかさもありません。

また、第3レース（ディスタンスレース）では、琵琶湖大橋の下を、31隻のJ-24が横一直線に並んで通過し、1マイル北のマークを一同となって回航するというハプニングもありました。

レース海面



なごやかな雰囲気です……



マーク回航する〈アポロニア〉総合2位



大混乱のマーク回航

(感想)

今回の関西選手権レースは、ワールド選考レースを兼ねることとなったため、昨年全日本選手権レースの参加26隻を上回る31隻(うち23隻が遠征チーム)と、空前の規模となりました。しかも日産系マリーナのな

い水域での初の大レースとなったため、主管の琵琶湖フリートに大変苦勞をかけることとなりました。しかし、地元ヨットマンの秋山氏、森岡氏の強力なご協力に支えられて、フリートキャプテン辻村氏、副キャプテン榎本氏をはじめとするフリートメンバー、マリンオフィス・フジタおよび南波氏の熱意と努力が実って、レースは予想外に盛大かつ好評のうちに終了することができました。このことは、J-24の普及へのは

ずみをもたらすものであり、ご支援下さった地元ヨットマンおよび運営に当たられた琵琶湖フギートの皆さんに心より感謝します。(文・写真：J-24クラス協会)

※お知らせ

'85年のJ-24ワールドは日本で開催されることになりました。海域は三河湾、ホストマリーナは日産マリーナ東海で11月に行われる予定です。

第2回J-24関西選手権兼'83ワールド選考レース成績

(58.3.19~21琵琶湖)

セーラーNo	艇名	艇長名	フリート	水域	第1レース		第2レース		第3レース	第4レース		第5レース	総計得点	最終順位
					順位	得点	順位	得点		順位	得点			
2474	ホンキートンク	林 基博	博多	博多	3	29	1	31¼	3	1	467½	5	107½	1
2697	アポロニア	福本征四郎	博多	博多	6	26	3	29	レ	3	43.5	レ	98.5	2
2864	J J	庄崎義雄	西宮	西宮	8	24	6	26	レ	7	37.5	レ	87.5	3
2672	コマルジュ	柴田三義	清水	清水	2	30	18	14	レ	4	42	レ	86	4
2677	チャイナタウン	石田幸博	関東	相模湾	9	23	15	17	レ	2	45	レ	85	5
2462	J/B	南波 誠	びわ湖	びわ湖	5	27	4	28	ス	14	27	ス	82	6
2871	オリーブ	萩原重一	関東	関東	14	18	8	24	ス	6	39	ス	81	7
2876	小梅	才田忠利	博多	博多	11	21	2	30	ス	13	28.5	ス	79.5	8
2699	ストリートガール	種部 堅省		富山	18	14	14	18	ス	5	40.5	ス	72.5	9
2687	マホロバ	真木英征	愛媛	新居浜	15	17	10	22	レ	10	33	レ	72.0	10
2680	光	金指昭郎	関東	相模湾	12	20	11	21	レ	12	30	レ	71	11
2665	アルフィ	吉良正彦	博多	博多	1	31¼	13	19	レ	20	18	レ	68¼	12
2666	ブーメラン	二宮隆雄	中部	三河湾	10	22	5	27	レ	22	15	レ	64	13
2681	オルフェ	稲垣康雄	西宮	西宮	16	16	9	23	レ	16	24	レ	63	14
2673	ハヤテ	深田敏雄	びわ湖	びわ湖	4	28	20	12	ス	21	16.5	ス	56.5	15
2885	オノ	小野一郎	びわ湖	びわ湖	DNS	0	7	25	ス	11	31.5	ス	56.5	15
2685	ごんべいさん	安富 慧	沼津	沼津	7	25	23	9	ス	19	19.5	ス	53.5	17
2863	ハンクオーバー	永信 修治	須磨	須磨	25	7	12	20	ス	15	25.5	ス	52.5	18
2669	マキ	井上政厚	びわ湖	びわ湖	21	11	26	6	ス	9	34.5	ス	51.5	19
2888	プロモントリ	中山道照		高松	DNS	0	17	15	ス	8	36	ス	51	20
2690	ピバ	山田貴久	中部	三河湾	17	15	19	13	ス	18	21	ス	49	21
2865	E. T	山口能考	西宮	西宮	13	19	25	7	ス	23	13.5	ス	39.5	22
2881	ル、シェール	筒井隆介	志摩	五ヶ所	19	13	16	16	ス	27	7.5	ス	36.5	23
2689	アドニス	瀬川洗城		徳島	29	3	22	10	ス	17	22.5	ス	35.5	24
2886	チサト	塩見 章	西宮	西宮	27	5	21	11	ス	24	12	ス	28	25
2458	オーシャンベル	芦田照夫	須磨	須磨	20	12	24	8	ス	28	6	ス	26	26
2860	シリウス	村山 進	びわ湖	びわ湖	22	10	29	3	ス	26	9	ス	22	27
2473	レディーファースト	大月美津子	西宮	西宮	24	8	30	2	ス	25	10.5	ス	20.5	28
2453	シーアンドスター	榎本卓雄	びわ湖	びわ湖	23	9	27	5	ス	31	1.5	ス	15.5	29
2678	エンタープライズ	辻村安太郎	びわ湖	びわ湖	28	4	28	4	ス	29	4.5	ス	12.5	30
2698	光(びわこ)	片上光雄	びわ湖	びわ湖	26	6	31	1	ス	30	3	ス	10	31
日					19				20		21			
時間					09:00~ 13:00~				14:00~					
天候					晴				晴		雨			
風向・風速(m/s)					S.W-5				N 4-5		0		S.W5-6 0	

第1回 J-24クラスレディスチャンピオンシップ

第1回J-24レディスチャンピオンシップが日本J-24協会の主催（主管は西宮フリート）で4月29、30の両日、好天の西宮港で行われました。

このレースは、我が国初の女性のみによるクルーザーレースであり、早くからヨットマンやマスコミから注目されていましたが、好天に恵まれ、マスコミ等、多くの観覧者に見守られ、また、地元西宮フリートの献身的運営により、極めて好評のうちに終了しました。

出場チームは、クルーザーレースやディンギーレース経験の豊富なチームもあり、またレース経験の少ない新人チームも含まれていましたが、結果的には経験の差がはっきりと成績に表れたようです。

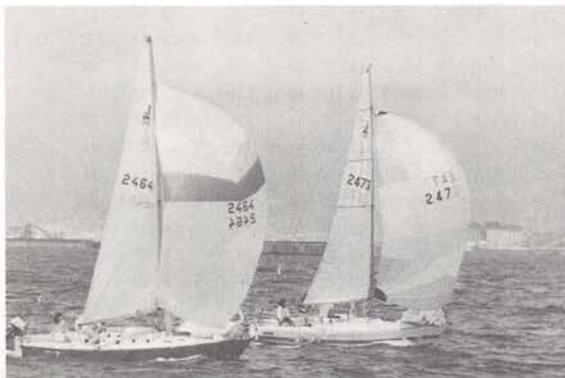
上位の1～3位チームが常にトップ争いをしてレ



いまにも黄色い歓声が聞こえてきそう

スを盛り上げたこと、地元チームの中のレディーファーストチームが善戦した点が注目されました。

下位の新人チームも、このレースで大いに刺激を受けたようです。経験の差が出たとはいえ、すべてのチームがこのレースに興味を示し、ぜひ今後も続けたいと希望していますので、今後のレディスレースの発展が期待されます。（文・写真：J-24クラス協会）



日本で最初のJ-24の女性チーム〈レディーファースト〉(右)

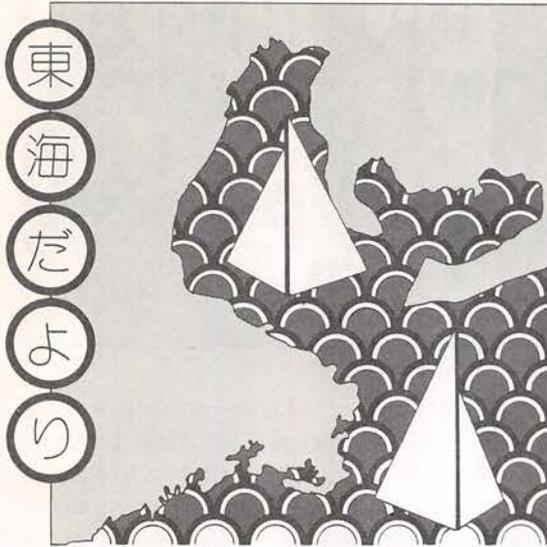


マーク回航する優勝艇〈ピンクキッス〉

第1回J-24レディスチャンピオンシップ成績表

58. 4. 29-30 (西宮港)

チーム	セール No.	艇名	ホームポート	スキッパー	レース										総合	
					1		2		3		4		5		得点	順位
					順	点	順	点	順	点	順	点	順	点		
ピンクキッス	2677	シーガル	関東	土屋美紀子	1	8 1/4	1	8 1/4	3 (-30%)	4.2	2 (-30%)	4.9	25.6	1		
リトルママ	2876	ドンキー	博多	高野由美子	DSQ	0	4	5	1	8 1/4	1	8 1/4	21 1/2	2		
スイートポテト	2685	J J	沼津	森山美保子	DSQ	0	2	7	2	7	3	6	20	3		
ピニャコラーダ	2891	ドナルド	中部	中嶋美津子	2	7	5	4	4	5	6	3	19	4		
レディファースト	2473	レディファースト	西宮	大月美津子	4	5	7	2	5	4	4	5	16	5		
チサトレディス	2886	チサト	西宮	製斗谷千尋	3	6	6	3	8	1	5	4	14	6		
ファイリー(仮)	2464	E . T	中部	高原宏子	5	4	3	6	7	2	8	1	13	7		
オ、ル、フ、エ	2681	O R F E	西宮	小柳了美	6	3	RET	0	6	3	7	2	8	8		
注：ピンクキッスの(-30%)は反則に対するペナルティであり、本レース委員会が本大会特別規則を適用し得点にペナルティを課したものです。					月 日		4 / 29				4 / 30					
					時 間		1010~		1530		0935~		1210~			
					天 候		曇		雨		曇		晴			
					風 速		6~8		8~10		6~9		3~4		4~6	
					風 向		W		N・W		NE		SW			



第8回五ヶ所湾合同レース

恒例の五ヶ所湾合同レースは、5月1日0300、衣浦港より51艇がスタートを切りました。

知多、握美、志摩半島と複雑な海岸沿いを走るこのレースは、毎年、岸か沖かとスキッパーにとっては年に一度のギャンブルレース。微風のスピランで師崎、伊良湖水道をかまし、プロパーコースで滑る艇群も、大王崎を過ぎるころは岸と沖コースに分かれ、フィニッシュ時点では混雑するほど大小仲良くゴールイン。今年もやはり岸寄り有利だったようです。

ヴィーヴルオーシャンクラブの屋内貸切パーティーでは、活魚料理とテンドーの中いっぴいの缶ビールに、お腹を十分満たして、カラオケあり、福引きあり……。数々の賞品を両手でかかえて帰るクルーの姿が印象的でした。

第8回五ヶ所湾レース成績表

着順	艇名	所要時間	TCF	修正時間	総合順位	クラス
1	ビシンド	11 ^H 25 ^M 51 ^S	8345	9 32 21	32	
2	カレラ	11 31 42	8230	9 29 16	31	
3	コルセア	11 33 18	7882	9 06 28	21	A-1
4	セレーネ	11 36 59	8230	9 33 37	33	
5	ミール	11 41 26	7620	8 54 30	12	
6	マーク	11 44 35	7530	8 50 33	8	
7	N O B O D Y	11 44 54	7333	8 36 54	③	
8	長良	11 47 44	7269	8 34 27	②	C-1
9	朝鳥	11 50 26	7863	9 18 37	30	
10	モランボン	11 51 23	7640	9 03 30	20	
11	ララ	10 11 51 41	7290	8 38 49	4	
12	ジャストV	11 54 30	7343	8 44 39	6	B-1
13	ガリバーII	12 00 05	7301	8 45 44	7	
14	シンドバット	12 00 26	8022	9 37 56	34	
15	桃山	12 05 28	7590	9 10 38	25	
16	カスミ	12 06 15	720	8 42 54	5	
17	ノア	12 07 26	7375	8 56 29	15	
18	ミノ	12 10 00	8177	9 56 55	35	
19	アサマ	12 11 15	7269	8 51 33	10	
20	うずしお	12 11 59	7580	9 14 51	27	
21	桃太郎	12 14 19	7560	9 15 09	28	
22	モシタイ	12 16 00	7458	9 08 55	24	
23	オセアニックEX	12 16 07	7280	8 55 53	14	
24	レインボー	12 17 28	690	8 28 51	①	D-1
25	ホライゾン	12 17 30	734	9 01 19	18	
26	サンチョパンサ	12 18 15	720	8 51 32	9	
27	フローレス	12 19 00	734	9 02 25	19	
28	ルシエール	12 21 47	720	8 54 05	11	
29	ラビータ	12 22 26	729	9 01 14	17	
30	チアフル	12 29 50	738	9 13 22	26	
31	ビブロス	12 07 30	754	9 08 32	23	*
32	バビルス	12 31 29	712	8 55 03	13	
33	マーチ	12 40 40	720	9 07 40	22	
34	トモエリカ	12 41 42	733	9 18 19	29	
35	スーパーユキレディー	12 58 02	692	8 58 23	16	

*スタートコミッティーのため27分遅れスタート

DNF 酒雪、飛鳥、クォーターアップル、タイトレス、ニューギニア、トライデント、オデッセイ、オーバスII、桃青、プラズマ、富士II、テニー、そのけ、バンディナ、シユビシユバ、きんとんらん

いよいよヨットチャートについて……………大橋郁夫

既報の、日本水路協会の事業であるヨットチャートの発行（東海水域分）が本決まりになり、今年中に出版されるとのことです。

最近打ち合わせ過程で、図割りを基本的に考え直す意向が水路協会側から出され、当方としては少々戸惑ったのですが、改正案にもそれなりのメリットがあるので、その比較検討と経過を報告します。

原案は、図番H-131(1/20万)で当水域全体をカバーし、その中の要所要所をH-185(三河湾)、H-186(鳥羽付近)、H-187(志摩南岸)の3枚(各1/3万程度)で拡大するという考え方でした。

改正案は、1/7万5千を原則として、

H-185 三河湾全部～富貴～中山水道

H-186 立馬岬～野島～神前崎～安乗崎

H-187 菅崎～大王崎～神ノ島～賢湾口

の3枚を互に重なり合う連続図とし、さらに、H-131(1/15万)で鳥羽港以北、佐久島へ伊良湖岬以西の知多湾・伊勢湾全部をカバーするというものです。

原H-131号の当水域の各基地を一枚に収めて見られるというメリットはなくなりますが、実際の海上では必要性が薄いし、それより本海図1051(全判)に近い作業が改正131(1/4判)で済むので、三重県の方々には朗報です。名古屋港・木曾川のやや奥まで入ります。

改正H-185は、豊橋港ブイ、馬草ブイ、河和港、衣

浦防潮堤、沖ノ瀬ブイを含み、三河湾内のレースを完全にカバーできます。本海図1052を西へ伸ばし、半分の面積(2/3の長さ)に縮めたと考えればよいでしょう。

改正H-186は、本海図1053を南にズラし、周図のムダを切り取って、さらに長さ2/3に縮めたわけです。原案の186が鳥羽・的矢の湾内の詳細図だったのに対し、改正案は接近・通過用の図という性格になっています。

改正H-187は、本海図78の北と西方を少々付け足し、長さで約半分にしたものです。

従来どうも連絡の悪かった志摩半島東岸が、改正の186と187で分かりやすくなりました。

鳥羽湾内、布施田水道、師崎水道、それに五ヶ所湾内等は、もう一段大縮尺の図が必要ですが、いずれも

小判の本海図またはその一部を切り出したものが使えます。1051、1053などの全判海図を艇内で扱わなくても済むのは、ハーフトン以下にとって好都合だと思います。

なお、すでに東京湾では、湾奥から野島崎沖までカバーするH-171～174の4枚続き図が1/7万5千で完成しています。水路協会ではヨット用の沿岸図としてこの縮尺を標準化し、順次、日本全国に広げたい意向のようです。それに合わせた航法用具の開発(航法図版というものがありません)などまで考えると興味のある問題です。関東支部・本部の航海術の専門家連中がタッチしておられる様子なので、将来の発展が楽しみです。

1983年初島レース報告

レース委員長 前田泰明

桜前線北上とともに、関東水域で今年度のオープニングレースともいえる初島レースが、4月2日クラスI～IV16艇、クラスV～VII16艇、計32艇の参加を得て行われた。当日は、発達しながら通過した北日本にある低気圧の影響を受け、SWの風15メートル前後、波高3～5メートル、強風波浪注意報発令下でのレースで、ハードな展開が予想された。

0730、シーボニア・キャプテンズ・ルームにて出艇申告を開始したが、2月号のオフショアでお知らせした、「出艇申告の際、NORCメンバーズカード(コピー可)がない乗員については非会員扱いとする」について、レース申し込み時に事務局より出艇申告の際必ず提出するよう各艇に伝達してあったのに、当日持参しない艇が相当数あり、受付が混乱してしまった。そこで急きよNORC帆走委員長の武市氏と協議の結果、今回は適用しない(注:次回から適用される)、ということで受付を開始した。

0830、艇長会議を開始。帆走指示書、次に横須賀海上保安部からの注意事項について説明し、艇長会議終

了後、直ちにスタートライン設定のための準備に入った。0945、出航。1100のスタートに間に合わせるようライン設定作業をしたが、強い風と波のため手間取り、1105、クラスI～IVのAクラス艇がスタート。ほぼ全艇ポートタックの豪快なセーリングで、〈SHINKIRO〉、〈FORTY III〉、〈MARTHA〉が素晴らしいスタート。全艇オールフェアにて一路初島へクローズホールドで走り去り、1120、クラスV～VIIのBクラス艇がスタート。〈GAMERA〉、〈HISHAKAKU〉、〈SAMOA〉が良いスタート。

全艇オールフェア、コミッティーもほっとしていたところ、〈DOLLY I〉と〈SUMMER KNOWS〉が何かトラブルの様子。近づいて来た〈DOLLY I〉を見ると、マストが前に倒れそうになっており、衝突事故を起こしたためのリギントラブルと分かった。セールを下ろし、エンジンにて帰港するのを確認し、陸上本部開設のため我々もアンカーを揚げた。原因は、ポートタック艇〈SUMMER KNOWS〉がスターボードタック艇〈DOLLY I〉の下側をベアウエイした際、ブローによる強いウエザーヘルムのため、シートのリリースが間に合わず〈DOLLY I〉のポートサイドに衝突したものである。ダメージを受けた両艇ともリタイヤした。

1600、DNFしたクラスBの〈RODEM V〉が帰港したので、艇長にレースの模様について聞き、かなりハイペースなレース展開であることを予想し、1630フィニッシュライン設定のためコミッティーポートを出港させた。出港の際、コミッティーポートのレース委員に対し、例年は取り払ってあるべき昆布筏が、今年は港内の半分ほどの面積を占有しており、夜間入港するレース艇のことを考慮して筏との距離を十分取



◀前を行く〈LAZY ALBATROSS〉と
〈SEIKAIHA〉撮影:西村一広/提供舵社

るよう、また、筏に近づいた艇に対しては、サーチライト等で注意するよう指示した。最初はかなり沖に投錨したが、強い風と波の中で走錨の心配もあり、長時間待つ乗員のことを考え、また、シーボニアヨットクラブのベテランの意見も聞き、小網代港の内側、例年設定される位置への移動を無線で指示し、ラインの延長上には障害物が無いことを確認の上、設定した。

大型艇有利の予想通り、Aクラスの〈SHINKIRO〉が、18時24分51秒着でファーストフィニッシュ。所要時間7時間19分51秒。13分遅れて〈LAZY ALBATROSS〉、更に、〈GEKKO V〉と続き、クラスBでは、〈GAMERA〉が20時7分5秒着、所要時間8時間47分5秒で、その後〈SAMOA V〉、〈MAMI〉と続く。その間、数艇が、フィニッシュ後、昆布筏に乗り入れたとの通報を受け、急いでシーボニアに連絡し、処置について依頼する。2130までの間、5艇の艇長からDNFしたとの報告を受けた。その中でも、〈MERLUZA III〉は初島手前でディスマストし、海中に落ちたマストを全員で艇上に引き揚げ、エンジンにて無事帰港したとの報告を受けた。人身事故がなかったのはほっとする。

2130にフィニッシュした艇以降、今回初参加のミニトン〈BLUE PALSAR〉一艇を待つだけとなった。クラスVI~VIIの他艇はすべてDNFしており、強風下のレース心配と同時に頑張ってるなあと感心する。一方、何処かヘリタイヤーしているのではないかと考え、確認作業に入ったところ、2315、コミッティーボートより、沖に航海灯が見えると連絡が入り、やがて

〈BLUE PALSAR〉と分かる。23時44分3秒フィニッシュ。健闘し、無事帰港した〈BLUE PALSAR〉に対し、全員思わず“ヤッター”と大喜びであった。結果は、32艇出艇、RET 2艇、DNF 5艇。ファーストフィニッシュ、Aクラス1位、総合1位と〈SHINKIRO〉が完全優勝した。Bクラス1位は〈GAMERA〉であった。

今回一部の艇からレース直後、フィニッシュラインの設定に関し、コミッティーに対して強い口調の批判があった。また後日、昆布筏のロープが切れたことについてその所有者である漁民から、NORCに何らかの見解を出すよう強い要求もあった。昆布筏の航路側には、閃紅浮標が点灯していたのであり、夜間入港に際してはサーチライト等も十分活用し、更にワッチ体制を強化していたらば、昆布筏の存在を確認出来たと思われる。筏乗り入れ艇の事故報告の原因の一部には、「フィニッシュ直後の気のゆるみ」、「昆布筏がこんな所にあるとは知らなかった」、という報告例もあった。出来れば、スタート前にフィニッシュ海面を確認しておくこと、夜間入港時のバウワッチを強化することなども必要かつ重要であろう。自艇の安全は自艇の責任で守るのが原則であり、レースの運営は多数の人達の無償の協力と努力で成り立っていることを自覚し、フィニッシュ後は、「ご苦労さん」の一言を常に忘れないで欲しいと思う。

なお、昆布筏乗り入れ事故の報告は3艇からありましたが、他にあれば、今後この問題解決のため再度報告をお願い致します。

第3回 小笠原レース成績表

艇名	セーラー ナンバー	所要時間	TMF	修正時間	総合順位
F U J I III	2112	107 ^h -23 ^m -38 ^s	1.1547	124 ^h -00 ^s -27 ^s	7
ナチVIII	2312	107-21-30	1.1160	119-48-00	6
エピキュリアン	225	108-03-47	1.0772	116-24-00	5
衣 笠	2212	113-51-59	0.9920	112-57-00	4
青海波	2640	108-12-18	1.0016	108-22-00	1
つばくろ	3003	Retire	1.0264		
ブルーノート	3050	Retire	1.0126		
がめら	2011	113-05-14	0.9655	109-11-08	3
サモア	3055	112-38-48	0.9655	108-45-00	2
父 島	5月1日	1200	スタート		
小網代湾 ナチVIII	4日	2321 ³⁸	フィニッシュ	(ファーストホーム)	
衣 笠	5日	0551 ⁵⁹	フィニッシュ		

'83大阪世界帆船まつり

今年、大阪城が築城されてからちょうど400周年に当たる。また、1958年以来大阪市が進めてきた海面埋立による土地造成が完成する年でもある。この記念すべき年を「大阪築城400年まつり」として盛大に祝い、記念事業として「世界帆船まつり」が開催される。

この記念事業は、①帆船まつり参加国と大阪、日本との相互理解と友好親善を深める、②大型帆船を通じて海事思想の普及と高揚をはかる、③港のもつ国際性・文化性を高めるとともに、人々が、夢とロマンにみちた海・港・船に親しむ場とする、などを目的として大阪市が主催し、本年10月22日(土)から1週間ないし10日間、大阪湾および大阪港一帯で行われる。

主な行事は、帆船パレード(10月23日)、一般公開(10月24日～)、クルーザーレース(10月22日)、クルーザーパレード(10月23日)などである。

以下はクルーザーレースの概略です。



レース方法 クラス別でレースを行います。
責任の所在 本レース委員会は、規則に従いその運営に最善をつくしますが、ヨットレースの国際慣例に基づき、レース艇がスタートするか否か、またレースを続行するか否かなどの決定は、各レース艇の責任で行うものといたします。またレースの主催者、運営者は参加者および参加艇の傷害や損害に対して、一切の責任を負わないものといたします。

乗員規定 乗員は2名以上、上限は艇の検査での乗員規定数とします。

賞および賞品 規定の順位賞(クラス別)の他、楽しい賞および賞品を用意しています。

参加料 1艇につき 4,000円

レセプション料 1名につき 1,000円

申込方法 申込用紙は下記あてにご請求ください。
 注：出来るだけ、ヨットクラブおよびマリーナー単位でまとめてご請求ください。

'83大阪世界帆船まつり・帆船歓迎記念ヨットレース

- 主催** WELCOME TALL SHIP MEMORIAL REGATTA 実行委員会
- 主管** 日本外洋帆走協会 内海支部
 関西ヨット協会
- 後援** 朝日放送(株) 関西ヨットクラブ 木場ヨットクラブ サントピアヨットクラブ 須磨ヨットクラブ 徳島外洋帆走協会 浜寺ヨットクラブ 的形ヨットクラブ
- 日程** スタート 昭和58年10月22日(土)
 レセプション 昭和58年10月22日(土)
 パレード 昭和58年10月23日(日)
 (注. くわしくは帆走指示書に記載いたします。)
- コース** 大阪湾南部～大阪港外の海面(約15マイル)
 (レース海面の詳細は、帆走指示書に記載いたします。)
- 参加資格** 全長19呎以上のキャビンおよびパラストキール付きのセーリングクルーザー(エンジン付き)で、アマチュアが所有する艇。
- 適用規則** 1981年 I. Y. R. U. 規則、本レース帆走指示書によるものとします。
- 安全規則** 船舶安全法に基づく、日本小型船舶検査機構の検査済(限定沿海区域以上)の艇に限ります。

〒552 大阪市港区築港2-1-2
 社団法人大阪港振興協会内

☎(06)571-2200(代)

ウエルカムトールシップ メモリアル
 レガッタ実行委員会

お申し込みは、上記あてに所定の申込書に出艇料およびレセプション費を添えて昭和58年6月1日より8月20日17時までにご送付ください。

整理の都合上、申し込み日時は厳守してください。

第9回オレンジカップレース成績表

(4/29~5/1)

*印はペナルティー順位

艇名	T.C.F	第1レース				第2レース				第3レース				第4レース				総合	
		着順	E.T(秒)	順位	得点	着順	E.T	順位	得点	着順	E.T	順位	得点	着順	E.T	順位	得点	得点	順位
カザ7	0.8159	3	14000	7	45.6	1	5111	1	44.25	4	7846	4	41	3	23108	32	15.6	146.45	6
トゴVII	0.8123	1	13645	2	51.6	2	5189	3	42	2	7488	3	42	12	24188	36	10.8	146.4	7
ミストレスハナ	0.8105	2	13742	3	50.4	3	5260	4	41	1	7243	1	44.25	14	24197	35	12	147.65	⑤
ワッキー3	0.8086	5	14426	12	39.6	12	5930	25	20	5	8000	5	40	8	24124	34	13.2	112.8	19
ハツ	0.7863	18	15926	27	21.6	5	5581	*29	16	3	7720	2	43	1	22896	16	34.8	121.4	14
獲	0.7719	6	14753	6	46.8	6	5787	10	35	22	12530	27	18	4	23200	9	43.2	143	11
マザ-	0.7719	23	16415	30	18	34	6857	40	5	31	14023	35	10	27	24426	33	14.4	47.4	38
銀河	0.7699	19	16254	26	22.8	13	5941	15	30	11	9689	11	34	9	24140	29	19.2	106	22
コントレール	0.7560	30	16968	32	15.6	32	6699	34	11	28	12793	28	17	DNF	-	-	1.2	44.8	39
ワッキー2	0.7590	27	16868	31	16.8	41	7310	25	3	17	12255	*28	17	25	24375	26	22.8	59.6	34
エンズビル	0.7590	4	14326	1	53.1	4	5517	2	43	6	8827	7	38	11	24170	23	26.4	160.5	③
麻規VIII	0.7580	14	15743	*24	25.2	8	5841	9	36	23	12548	24	21	24	24302	25	24	106.2	21
アルゴノート	0.7680	26	16740	33	14.4	15	6050	19	26	33	14313	37	8	23	24284	31	16.8	65.2	33
カリノ6	0.7709	13	15722	19	31.2	9	5857	11	34	9	9515	*15	30	7	24110	30	18	113.2	18
アムール	0.7650	11	15610	16	34.8	17	6166	22	23	13	11849	16	29	22	24238	27	21.6	108.4	20
アクエリアス	0.7670	12	15630	17	33.6	11	5901	13	32	18	12423	25	20	19	24230	28	20.4	106	23
ジュナウザー	0.7550	21	16390	23	26.4	18	6191	20	25	26	12663	26	19	DNF	-	-	1.2	71.6	29
サキIII	0.7530	DNF	-	-	1.2	DNS	-	-	1	DNS	-	-	1	DNS	-	-	1.2	4.4	43
白鯨III	0.7580	9	15280	10	42	24	6341	28	17	30	13807	32	13	16	24209	24	25.2	97.2	25
エルマリネロ	0.7448	22	16410	20	30	35	6966	36	9	36	14670	36	9	DNF	-	-	1.2	49.2	37
クラリッサ	0.7427	DNF	-	-	1.2	37	7069	-	6	DNF	-	-	1	DNF	-	-	1.2	9.4	41
スイートブロンディー	0.7406	7	15113	4	49.2	10	5861	6	39	10	9553	9	36	17	24216	11	40.8	165	②
クルージャ	0.7417	10	15430	8	44.4	16	6095	12	33	7	8911	6	39	31	24535	21	28.8	145.2	8
トップオブゼーニング	0.7396	16	15825	13	38.4	14	5977	*13	32	14	11892	13	32	21	24236	10	42	144.4	9
フィデアリア2	0.7406	8	15138	5	48	7	5827	5	40	15	12011	14	31	2	23040	1	53.1	172.1	①
インプレッション	0.7343	15	15770	9	43.2	26	6512	24	21	21	12511	19	26	15	24198	6	46.8	137	⑩
ランプリングローズ	0.7343	DNF	-	-	1.2	36	7000	35	10	25	12591	22	23	28	24445	14	37.2	71.4	30
ウイザード4	0.7248	20	16292	14	37.2	19	6280	14	31	8	9282	8	37	6	24096	2	51.6	156.8	④
リバージュ	0.7258	29	16880	21	28.8	22	6314	16	29	27	12691	21	24	10	24165	4	49.2	131	13
バリアント	0.7269	DNF	-	-	1.2	40	7210	31	7.2	40	16212	40	5	30	24472	7	45.6	58.8	35
ブロンコ	0.7322	DNS	-	-	1.2	31	6651	30	15.2	37	14773	34	11	35	24750	20	30	57.2	36
カレント	0.7333	24	16510	18	32.4	27	6543	26	19	32	14100	31	14	32	24683	19	31.2	96.6	26
久作	0.7301	31	17122	25	24	30	6609	29	16	24	12590	20	25	36	24765	18	32.4	97.4	24
マリッキズ	0.7406	34	17661	35	12	33	5053	33	12	38	15214	38	7	18	24222	13	38.4	69.4	31
エバーマウント	0.7280	33	17402	29	19.2	28	4799	27	18	16	12220	15	30	5	24048	3	50.4	117.6	16
タック	0.7301	DNS	-	-	1.2	25	4723	23	22	29	13639	29	16	26	24378	8	44.4	83.6	27
スティング	0.7280	35	17832	34	13.2	39	5232	37	8	34	14437	33	12	33	24735	17	33.6	66.8	32
エルドメール	0.7385	28	16870	24	25.2	29	4877	31	14	39	15621	39	6	34	24738	22	27.6	72.8	28
ブローアップ	0.7333	32	17200	28	20.4	20	4612	17	28	20	12486	18	27	29	24458	12	39.6	115	17
青波行	0.7322	17	15865	11	40.8	23	4642	18	27	19	12470	17	28	13	24189	5	48	143.8	10
ワイワイミミ	0.7417	25	16635	22	27.6	21	4677	21	24	12	10317	12	33	20	24232	15	36	120.6	15
カウベル	0.6993	DNS	-	-	1.2	38	5025	32	13	35	14453	30	15	DNF	-	-	1.2	30.4	40
甲龍V	0.6795	DNS	-	-	1.2	42	5294	41	4	DNF	-	-	1	DNF	-	-	1.2	7.4	42
カゲロ-	0.7343	DNF	-	-	1.2	DNS	-	-	1	DNS	-	-	1	DNS	-	-	1.2	4.4	44

第2回 オレンジフェスティバルレース成績表 (5/1)

オレンジカップレース総合成績

順位	艇名	艇種
1位	フィデアリア2	YOKO-32
2位	スイートブロンディー	YOKO-32
3位	エンズビル	YAMA-34R
4位	ウイザード4	NAKA-31
5位	ミストレスハナ	DOU-38
6位	カザ7	TAKA-41
7位	トゴVII	HOL-41
8位	クルージャ	YOKO-32
9位	トップオブゼーニング	YOKO-32
10位	青波行	TAKA-30
参加44艇		

クラスI (兼オレンジカップ第4レース)			クラスII		
順位	艇名	艇種	順位	艇名	艇種
1位	フィデアリア2	YOKO-32	1位	ミスターグーフィー	NAK-31
2位	ウイザード4	NAKA-31	2位	バンベール	HOL-26
3位	エバーマウント	NIC-30	3位	マーマレード	DOU-30
4位	リバージュ	NAKA-31	4位	ユーホー	TAKE-33
5位	青波行	TAKA-30	5位	アルビレオ	T&P-42
6位	インプレッション	YOKO-31	6位	デジション	JOY-26
7位	バリアント	NAKA-31	7位	レイラニ	DOU-30
8位	タック	DUB-32	8位	ハンドスパン	PASA
9位	獲	TAKA-36	9位	ブルメリア	VENT-F
10位	トップオブゼーニング	YOKO-32	10位	モーランV	Y-33
参加44艇			参加26艇		



車イスの人魚 “フィアーナ”が海に還る日 ⑩

インド編

石井浩一・フィアーナ

このハウスボートの周囲には、常に数十羽のアヒル群団が泳ぎ回っていました。彼等は、実に食欲旺盛で、水に漂っている物なら無差別に手当たり次第に口にしていました。その浮遊物の中に、我々の体内より廃棄される非栄養有機物集団が含まれているとは、つゆ知らず……。

ある朝早く、ハウスボート屋のおやじがやってきて「今日は、あなた達のために、スペシャルランチを作るから、こう御期待のほどを！」と言い残して町へ買い物に出かけて行きました。我々も早朝からジタールと近所の子供達を連れて（というよりも彼等に連れられて）公園に遊びに行き、午前中を過ごしました。昼過ぎにボートにもどると、親父の予言通り豪勢な昼食が用意されていたのです。「ひょっとしたら割増し料金を取られるのでは？」と思えるほどのものでした。

「うまい！ うまい！」の連発で、出されたものすべてをたいらげてしまい、「特に、あのスープとこのソテーは絶品だったねえ！」などとフィアーナがアブドールに世辞を言っていると、「そうだろう。うちのアヒルは大事に育てているから……。」と目を輝かせながら得意気に水辺を指さしています。そこには無残にも羽根だけが散らばって浮いていたのでした。最も新鮮な材料を使って作ってくれたのはいいのですが、彼等が何を食っていたか目撃しているだけに、また、彼等と仲よくなっていただけに、手ばなしで喜ばませんでした。

この家族にいろいろとお世話になり、我々のパッケージを大いに楽しませてもらったので、チップをはずみ、そしてこっそりジタールのポケットにいくらかのお金をねじ込み、このハウスボートをあとにしたのです。

再び空路でニューデリーを経由し、ボンベイに足を向けたのですが、今度は冬から夏へ逆もどりで。暑くて、じっとしていても汗がしたり落ちてきました。ボンベイは商業港があり、エキサイティングタウンといううわさを耳にしたのですが、僕等はあまりこの町にはなじみませんでした。

というのも宿探しの時に一もんちゃくあって、この土地に対して印象を悪くしたのも一因です。我々の条件に折り合うところがなかなか見つからず、一組のヨーロッパ人のカップルに推められて泊ったところは、壁はベニヤで間仕切り程度、背の高い人は上から

見えるし、しゃがむと下からもまる見え、ドアがあってもカギがかからないというおそまつで、宿泊料だけは並以上というひどいところでした。荷物を部屋に置いてくわけにもゆかず、外出の度に持ち歩くはめになりました。その格好で海岸まで行き、落陽を見て近くの高級ホテルで食事をしたことぐらいしか覚えていません。こういうところに長居は無用と南下を決め込み、マドラスに向かったのです。

途中ゴアという海の美しいリゾート地があったのですが、素通りしました。というのも、マドラスには大きな目的があり、そのために先を急ぐことにしたのです。それは、インドではかなり有名な人物で、サイババという生き神様みたいな人がいて、彼に一度是非会ってみたいと思ったからです。

我々は非常に興味を持ち、彼にぜひ会ってみたいという気持ちが強くなるのを押えきれず、だめでもともと、当たって砕けろという心境で、彼の定住地マドライに向かう決心をしたのです。彼は過去に随分と多くの体の不自由な人々を元の体にもどしてあげたとのことです。フィアーナは特にそうですが「ひょっとしたら、という期待を膨らませたのでした。

デリーの飛行機会社のオフィスに出向き、マドライ行きの予約をしようとする、3週間先まで満席とのことでした。この時はどうしてもという気持ちが強かったので、いろいろな手で交渉してみましたが、どうにもならず、じゃあ近くのマドラスで待機しようということになりました。ところが、こういうことを考えるのは我々だけではありませんでした。結局マドラスでもニューデリーのケースと同じように、かなり待たされることになり、うまくスケジュールの調整がきかず、彼との対面は果たされずに終わりました。「きっと近い将来その夢を果たせる日がくるよ」とお互いになくさめあったものです。いつの日か再びインドに行くチャンスがあれば、再度挑戦しようと思っています。

水辺のハウスボート



「海の旬間」のお知らせ

今年も7月20日から同31日まで、下記の要領で「海の旬間」が実施されますのでお知らせ致します。

昭和58年「海の旬間」実施要領—運輸省

第1 目 的

「海の旬間」(以下「旬間」という。)は、四面を海に囲まれた我が国にとって国民生活と密接に結びついている海の重要性、とりわけ我が国の将来の発展に必要な不可欠である海の開発および利用の重要性について、広く国民の関心を喚起するとともに、海洋環境の保全、海上における安全の確保等に関する健全な海事思想の普及を図り、もって海洋国家日本の発展に資することを目的とする。

第2 基本的な方針

第1の目的を達成するため、「海にひらこうわれらの未来」をテーマに、運輸省が中心となり、海運、造船、港湾、水産の関係者等海を生活の場としている人々をはじめとする国民の「旬間」行事への全国的な参加を図ることにより、一般世論の盛り上がりを喚起するものとする。

第3 期 間

「旬間」は、7月20日(「海の記念日」)から7月31日までの12日間とする。

なお、この「旬間」を効果的なものとするための諸準備および周知活動を行うため、7月10日から7月19日までの10日間を準備期間とする。

第4 主 催

「旬間」の主催団体は、運輸省、海上保安庁、気象庁、日本小型船舶検査機構、海上災害防止センター、(財)日本船舶振興会、日本海事財団、(財)日本海事広報協会、(社)日本海難防止協会、(財)日本海事科学振興財団、(社)日本港湾協会、(財)日本水路協会および(社)日本海員救済会とする。

第5 組 織

「旬間」を強力に推進するため、中央においては主催団体で構成する「海の旬間推進委員会」を設置し、総合的な実施計画を作成して、その実施に当たり、地方においては各海運局(海運監理部を含む。)および沖縄総合事務局が中心となり、関係行政機関および団体等で構成する「海の旬間実行委員会」を設置し、各地域ごとの実施計画を作成して、その実施に当たるものとする。

第6 実施事項

「旬間」の期間中においては、下記の実施事項を極力広範囲に実施するとともに、これら以外の事項についても、地域の特殊性を考慮して、「旬間」の趣旨にそった有効な事項をおりこみ実施するものとする。

なお、周知活動については、準備期間も含め、広範囲に実施するものとする。

記

1. マスコミ、掲示物等による周知活動

(1) 白書等の発表

「海上保安の現況」および「日本海運の現況」を作成し、発表する。

(2) ポスター、字幕等の作成・掲示

「旬間」のテーマおよび「海の記念日」をモチーフにしたポスター、字幕等を作成し、広範囲に掲示を行う。

(3) 広報資料の作成・配布

「旬間」の趣旨を周知するための広報資料を作成し、広く一般に配布する。

(4) テレビ、ラジオ等による広報

テレビ、ラジオ、週刊誌等を通じ「旬間」の目的を達成するための広報活動を実施する。

(5) 配布物による一般への周知

各種配布物を作成し「旬間」行事を通じて広く一般に配布する。

2. 実施行事

(1) 記念式典

「海の記念日」記念式典を開催し、海事功勞の顕著な者に対して表彰を行う。

(2) 海上・街頭におけるデモンストレーション等

海上パレード、街頭パレード、フェスティバル等のデモンストレーションを実施するほか、図画、写真コンクール等を開催する。

(3) 体験航海等

青少年を対象とした体験航海および体験乗船を実施する。

(4) 船舶、研究施設等の一般公開を行う。

(5) 講演会、映画会等

海洋に関する講演会、映画会、海事ゼミナール等を開催する。

(6) 訪船指導、無料健康相談等

海洋汚染防止、海難防止のための訪船指導、船員等を対象とした無料健康相談を行うほか、港内、海浜等の清掃を行う。

(7) 海洋スポーツの振興

ヨット、モーターボートへの体験乗船および各種競技会を実施し、海洋スポーツの振興を図る。

(8) 汽笛の一斉吹鳴

7月20日(「海の記念日」)正午を期して汽笛の一斉吹鳴を行う。

レースのお知らせ

●江ノ島～清水レース

江ノ島～清水レースも早第10回を迎えました。第1回より数々の艇が腕を競い、相模湾と駿河湾の海を楽しんで(苦しんで)、回を重ねてまいりました。一時は80艇にもなった参加艇も減少傾向にありますが、今回NORC 駿河湾支部発足10周年と相まって盛大に行いたいと思います。皆様、奮ってご参加下さるようご案内申し上げます。

〈レース実施要項〉

主催 NORC 本部
 日時 昭和58年7月16日(土)～17日(日)
 スタート AM1000 (申し込み締切日は7月1日)
 コース 江ノ島～清水
 適用規則 帆走指示書による
 賞 従来通り(参加全艇に記念品)
 申し込み NORC 本部, 駿河湾支部
 一般事項については帆走指示書による。

なお、泊地について

1週間以内、清水湾船だまり(昨年と同じ)

1艇、1日 1,000円

※艇長会議は7月15日(金)1830～2000

●1983年三浦市ちびっ子 ヨットレース

夏の熱気予告のような毎日ですが如何お過ごしでしょうか。さて、恒例の三浦市ちびっ子ヨットレースを下記のように計画いたしました。地元の子供達にヨットとの出会いの場をつくり、相互の親睦を深めるため、ぜひ計画へのご参加と、寄付金にご協力をよろしくお願い申し上げます。

1983年ちびっ子ヨットレース実施要領

日時 昭和58年7月17日(日)
 場所 神奈川県三浦市三崎町跡磯漁港
 参加資格 小学3年以上中学まで
 詳細はNORC (☎03-504-1911) 内実行委員会まで
 実行委員会準備要領

■第1回打ち合わせ会 6月13日(第2月曜)
 ■第2回打ち合わせ会 7月11日(第2月曜)
 1830～2130 虎ノ門船舶振興ビル4階(NORC)

■最終打ち合わせ会

7月16日(土), 1700～1800 油壺三崎マリン事務所前

■ちびっ子ヨットレース前夜祭

7月16日(土), 1800～2200 油壺三崎マリン事務所前

■会費 上戸 2,000円 下戸 1,000円 子供無料

お問い合わせ、ご意見はNORC(☎03-504-1911)事務局にお寄せ下さい。(連絡ノートを備え、必ず電話でご案内、お返事をいたします。)

寄付金および労力提供のお願い

下記のように寄付金を募金いたします。また、労力提供は、実行委員会にお電話下さるか、打ち合わせ会にご出席下さいますようお願いいたします。

イ. 銀行振込 三菱銀行大伝馬町支店

(普) 027-4283408 三浦市ちびっ子レース

清田 博

ロ. 油壺受付 三崎マリン(☎0468-82-6081)フロント

ハ. 当日受付 当日会場で受け付けます。

●ビッグボート

シリーズレース

ビッグボートクラブ

本格的なレースシーズンを迎え皆様方もお忙しい日々を送られていることと存じます。過日 '83ビッグボートシリーズの開催地である関西ヨットクラブで山田(TOGO)、山口(KO-TERUTERU)、荒井(クリスチーナ)、野村(NOMI)のオーナー諸氏と打ち合わせの結果、レース日程が下記のように決まりました。内容はビッグボートの全日本にふさわしくするべく、現在、関西ヨットクラブを中心に素案作りを急いでおります。

皆様方には、出場準備をお願いすると同時に、関西にてオーナーズミーティングを行いますので、ぜひご参加下さいますようお願いいたします。

また、周囲でクラブ未加入、出場希望の方がございましたらご紹介下さるようお願いいたします。

記

'83ビッグボートシリーズ日程

8月13日(土) ショートレース (KYC)
 14日(日) ショートレース (KYC)
 15日(月) ショートオフショア(KYC→サントピア)
 20日(土) ロングオフショア(サントピア→KYC)
 21日(日) ロングオフショア(サントピア→KYC)

ビッグボートクラブ・オーナーズミーティング(関西)
6月18日(土) 1700～ 甲陽園「播半」

TEL (0438)23-2091

●第1回木更津やっさいも っさい踊り&ヨットレース

第1回やっさいもっさい踊りヨットレース実行委員会

関西には、今年で11回目を向かえる「あわ踊り」があり、関西のヨットマンはいいなと思っている関東のヨットマン出番です。

毎年8月14日に、木更津の町で行われる上総版あわ踊り「やっさいもっさい」とドッキングして、東京湾から三浦半島一帯のヨットマンの腕前と踊りをきそって頂くイベントを企画いたしました。

「やっさいもっさい」とは、49年にスタートした上総版のあわ踊りで、毎年8月14日には木更津の町が、踊るあほう1万人・見るあほうあわせて3万人の人が夕方6時から9時まで、3時間たっぷり汗を流す大イベントで木更津の町が熱気でむせかえります。その内へヨット連として参加します。

第1回やっさいもっさい踊り・ヨットレース実施要領

日 程 58年8月14日(日)
場 所 木更津市および港外
主 催 やっさいもっさい踊りヨットレース実行委員会
主 管 ドルフィンクルージングクラブ
協 力 木更津市観光課、木更津市観光協会、木更津市青年会議所、(株)セントラルボート
内 容 〈ヨットレース〉
木更津港沖から勝山沖浮島往復のヨットレース
〈やっさいもっさい踊り〉
ヨット連を作り、そろいのTシャツで踊りに参加する
〈前夜祭〉
バーベキューとピヤーパーティー
賞 典 優勝～5位 カップ
ファーストホーム賞
参加賞
参加費 レースエントリーフィ 1艇/5,000円
パーティーフィ 1名/2,000円
1名(女性)/1,000円
募集数 100艇(600～700名)
募集方法 パンフレット、専門誌告知、協会誌告知、パブリシティー
イベント告知(取材予定)T・V、新聞、専門誌ほか
申し込み問い合わせは
ドルフィンクルージングクラブ事務局 大島まで

●1983年ミニトン 全日本選手権レース

主 催 (社)日本外洋帆走協会西内海支部
担 当 日本ミニトン協会
主 管 日本ミニトン協会松山支部
期 間 昭和58年10月7日(金)～11日(火)
ホ ー ム 島マリン 和気ヨットハーバー
ポ ー ト 愛媛県松山市和気町2丁目番外1-1
開催場所 堀江湾を中心とする斉灘
レ ー ス 10月7日(金) 搬入受付 インспекション
日 程 出艇申告 艇長会議
10月8日(土)
①レース(オリンピックコース)
②レース(オリンピックコース)
10月9日(日)
③レース(ショートオフショア)
10月10日(祭日)
④レース(オリンピックコース)
④レース終了後、⑤レース(ロングオフショア)
10月11日(火)
⑤レース終了後、表彰式
適用規則 A…1980年 NORC 外洋レース規則
B…1983年 ORC 特別規則-4
C…1983年 NORC 安全規則-C
D…1983年 JOR または IOR
E…1981年～1984年 IYRR
F…帆走指示書
G…レース実施要項
参加資格 1. NORC 外洋レース規則4条による参加資格を有すること。ただし、艇長を含む乗員数およびエントリー人員は次のとおり。
乗員数3名 エントリー数6名以内
2. 適用規則B、Cを満たし、1983年 JOR または IOR による有効レーティングを有し、17.4フィート以下の艇であること
3. 日本ミニトン協会の会員艇であること
入会金 5,000円
年会費 2,400円
※入会は出艇申告時でもよい
参加申込 A. 申込先
日本ミニトン協会松山支部
〒790 松山市南町2丁目5-17
TEL(0899)41-3325

- B. 申込方法
所定の用紙に出艇料をそえて申込先へ郵送すること 用紙は請求のこと
- C. 申込締切
昭和58年9月28日(水) 1700
- D. レース参加料
30,000円(ただし、レース期間4日間の乗員の昼食代を含む)
- E. 乗員参加料
1艇につき6,000円

連絡先 申込先と同じ
その他 詳細はレース実施要項、帆走指示書による

- 11月2日(水) 1000～ オリニックコース(30マイル) 網代沖
- 11月3日(木) 1000～ ロングオフショア 熱海～神子元島(反時計)～佐島沖観測ブイ(反時計)～神子元島(反時計)～大島(反時計)～熱海
- 11月5日(土) 1800～ ウェルカムパーティー 熱海後楽園
- 11月6日(日) 1000～ オリニックコース(30マイル)
※なお引き続き、本レースの詳細を7月号でお知らせいたします。

出場艇数について

- 1) 17チームを限度といたします。
- 2) 17チームを超えた時には帆走委員会が調整いたします。
- 3) チーム編成が出来ない支部については、他支部との混成チームも可能です。

●全国支部対抗レース

帆走委員長 武市 俊

第1回全国支部対抗レースを下記の通り開催することとなりましたのでお知らせします。

レース日程

- 10月29日(土) 1100～1600 インспекション 熱海港にて
- 10月30日(日) 1200～ ショートオフショア 熱海～神子元島(反時計)～佐島沖観測ブイ(反時計)～熱海フィニッシュ
※風向により逆コースもあり
- 11月1日(火) 1000～ オリニックコース(30マイル) 網代沖

●熱海レース日程変更

関東支部・帆走委員長 宮坂敬三

熱海レースの日程を下記の通り変更いたします。
(旧) 11月4日(金) 0800スタート 小網代～熱海間
(新) 11月5日(土) 1000スタート 小網代～熱海間
申し込み締切日、出艇申告および艇長会議については変更ありません。

あなたのクルージングに安心を乗せて

潮風のメッセージを運ぶ…「船舶電話」



船舶電話があなたの海の休日をより楽しく安全なものにします!
忙しいあなたも これさえあれば安心です!

JMT 日本船舶通信株式会社

■お問い合わせ先 横浜 ☎(045)201-2991
神戸 ☎(078)331-4606



泊地対策委員会レポート

泊地対策法律110番を開設

泊地対策委員長 平野喜美夫

さる3月29日(火)18時30分からNORC本部会議室において、泊地対策委員会3月例会を開催した。

当日の出席者は、菅原留意(葉山)、平田克己(三崎マリーナ)、名当英臣(油壺)、大河原孫一(佐島)、石川宗八郎(諸磯)、高木伸学(シーボニア)、鈴木博士(木更津)、平野喜美夫(シーボニア)、下川肇・上原幸子(船橋)、藤森紀明(横浜)。

出席者から各クラブの保管料値上げ状況について報告があった。今回は特に葉山マリーナの料金体系と料金表について、これまで他のマリーナに比べ大幅な値上げとなっており、注目された。

なお、シーボニアヨットクラブの高木伸学氏(弁護士)が出席、泊地に関する法的問題について、いろいろお話を聞くことができた。

今後は顧問として、泊地対策の法律110番の担当相談者としてご協力いただけることとなった。

相談をご希望の方はNORC本部事務局あて、できれば書面で相談事項を申し込んで下さい。

また、2月7日に開催した2月例会で、58年度の泊地対策委員会方針書を承認、この方針に基づき、今後の委員会活動を実施することとなった。その内容は次のとおりである。(全国マリーナ実態調査の結果は次月に発表)

58年度 NORC 泊地対策委員会方針書

1. 現状の把握
 - (1) 57年度実施した全国マリーナ等実態調査データの整理と発表 (OFFSHORE等に発表)
 - (2) 過去10年間における保管料等変動データの公表(地域別)
2. 後ろむきの対策
 - (1) 保管料値上げに対し、極力おさえるための運動を展開
 - (2) 無認可停泊に対する対策の協力
 - ① 係留認可問題のPR(法律110番の開設)
 - ② 鳥羽レースフィニッシュ艇対策
3. 前むきの対策

- (1) 泊地建設の促進(陳情作戦を含む)
 - ① 公共一横須賀・熱海・静岡・千葉等
 - ② 第3セクター、民間一神奈川・東京・千葉等
- (2) 漁業組合とのタイアップによる漁港利用の促進(農林水産省)
4. 組織と編成
 - (1) 関東支部管下の分担 } 本部と支部の組織線引と分担
 - (2) 全国各支部の分担 }
5. 全国的に泊地施設建設に対するNORCの積極的な協力

58年度泊地対策委員会関東支部のメンバーは次のとおりで、各支部の泊地対策委員については担当委員を選出方、各支部に依頼中である。

NORC 関東支部泊地対策委員会委員名簿

委員長

平野喜美夫 〒248 鎌倉市笛田1152-21
☎0467-31-1956(自)
03-404-3311内2344(会)

委員

羽柴宏昭 〒238 横須賀市坂本町2-24
☎0468-24-0377(自)
0468-22-4000内2438(会)

平林 滋 〒150 東京都渋谷区神宮前1-14-4
☎03-478-5703(自), 03-404-5411(会)

亀井澄夫 〒248 鎌倉市大町2-4-7
☎0467-24-8204(自), 03-400-2044(会)

矢吹秀邦 〒150 東京都渋谷区西麻布1-2-9
☎03-408-1016(自), 03-502-3021(会)

菅原留意 〒249 逗子市久木3-10-22
☎0468-71-3962(自), 0468-61-5111(会)

大河原孫一 〒114 東京都北区王子2-15
☎03-911-2334(自)

鶴飼 恒 〒154 東京都世田谷区三軒茶屋2-14-10
ロイヤル M.S. 三軒茶屋602
☎03-410-0553(自)

横沢真則 〒177 東京都練馬区谷原5-14-17
☎03-997-6036(自)

草間信二 〒192 八王子市子安町2-31-21
☎0426-42-5389(自), 0426-42-7191(会)

種村道彦 〒130 東京都墨田区千之2-5-4

名当英臣 〒251 藤沢市藤沢2481
☎0466-81-8290(自), 03-409-7551(会)

古川保夫 〒140 東京都品川区大井5-16-16
☎03-771-5434(自), 03-474-3570(会)

下川 肇 〒281 千葉市長作町1385-33
☎0472-57-4384

平田克己 〒107 東京都港区南青山5-1-10-1205
☎03-407-6100(自), 045-662-1321(会)

川久保史朗 〒187 小平市小川町1-823

- 石川平八朗 ☎0425-65-0266(自), 0423-41-3290(会)
〒194 町田市つくし野1-36-28
- 藤森紀明 ☎0427-96-9362(自), 03-403-9203(会)
〒236 横浜市金沢区町屋町21-7
- 竹下義紀 ☎045-781-8228(自)
〒335 蕨市南町2-31-12
- 鈴木博士 ☎0484-45-5045(自), 0482-53-0571(会)
〒273 船橋市宮本4-18-8-503
- 石井 孝 ☎0474-31-7085(自), 0474-78-8734(会)
〒272-01 千葉県葛飾郡浦安町美浜
4-4-1004
- 稲葉文則 ☎0473-53-2606(会)
〒413 熱海市林ヶ丘18-5
- ☎0557-82-3492(自), 0557-81-9257~9

カップレース、浮島ショートオフショアレースを行っています。レース熱もさかんです。中央のレースには、YA-33の〈クレインII〉およびYA-26Sの〈快進丸〉がたまに出かけて行く程度です。出来ればNORCレースを東京・千葉・横浜に、というのがクラブメンバーの願いです。特に浦安地区の歌田氏、石井氏も現泊地問題も含めて共通の願いのもと、フリートを拡大してゆく所存とのことです。

頒布物品のお知らせ

泊地対策委員会からのお知らせ

木更津ヨット新設バースのご案内をいたします。
(NORC 会員艇, 若しくは入会希望艇を対象)

- ◎30呎まで, 5バース
- ◎40呎まで, 2バース

係留代1Fにつき1万円(年間)
入会金ほか, 30万円より(全長により異なる)
〔連絡先〕

木更津市富士見3-1-22 セントラルポート(株)
ヨット管理者 大島博まで
☎0438-23-2091(月曜定休)
または,
船橋市宮本4-18-8-503
NORC 木更津フリート結成準備委員会 鈴木博士
☎0474-31-7085(夜1100まで可)

*

なお、木更津ヨットとは、(株)セントラルポートが中心に、木更津市ヨット協会を形成し、千葉県より木更津市内の中ノ島公園近くの海域を借りているものです。管理は(株)セントラルポートが行っています。

そして、クラブとして、木更津市ヨット協会の下部組織として、ドルフィンクルージングクラブを形成し、毎年3月~12月まで9回のポイントレース、ヤマハ

〈通信委員会より〉

電波航法機器、SSB無線送受信機などを各メーカーの協力で、クルザー仕様の機器を開発、会員の皆様に頒布いたします。ご希望の方はNORC事務局(電話03-504-1911)にご連絡下さい。

頒布品は、本体および標準工事材料を含んでおりますが、取付工事、調整、取り扱い説明および電波申請は含んでいません。SSB無線送受信機以外は、電気知識があれば、マニュアルを参考に標準工事材料を用い、自分で取付、調整が出来ます。

〈協立電波〉

衛星航法装置 RU-307型 特別会員 ¥635,000
会員会友 ¥660,000
オプション：プリンター、などあり。

〈光電製作所〉

• ロラン航法装置 LR-757型 特別会員 ¥514,800
会員会友 ¥561,600

〈古野電気〉

• ロラン航法装置 LC-55型 特別会員 ¥454,000
会員会友 ¥474,000

オプション：なし。

• ロラン航法装置 LC-70型 特別会員 ¥583,000
会員会友 ¥625,000

オプション：プリンター、コースレコーダーなどあり

• ファクシミリ FAX-108型 特別会員 ¥630,000
会員会友 ¥685,000

全世界の気象ファックス、共同通信ニュースなど受信可能

〈八重洲無線〉

• SSB無線送受信機 FT-400C型 特別会員 ¥498,500

NORC専用波を含む7波実装済み
郵政省型式認定品



木更津ヨット全景：中ノ島公園よりDボートで通う。
若しくはモーターテンドー使用

〈ACR社〉

・EPIRB クラス“B” RLB-12型
特別会員 ¥ 95,000

FCC, コーストガード型式認定品

郵政省型式認定申請中

〈セナー(株)〉

・ロラン航法装置 TI-9000型 特別会員 ¥230,000
会員会友 ¥250,000

時間差表示のみ

・ロラン航法装置 1024型 特別会員 ¥403,000
会員会友 ¥420,000

〈日本無線〉

・ロラン航法装置 JNA-770型
特別会員 ¥575,000
会員会友 ¥600,000

・オメガ受信機 JLA-104型 特別会員 ¥935,000
会員会友 ¥977,500

上記2機種はDC 24V仕様です。

*SSB無線機およびEPIRBについての電波申請は、NORCが代行申請します。

〈事務局より〉

本誌2月号と4月号の2回にわたり紹介いたしました高性能・全天候型マリン専用双眼鏡“スワロスキー《ハビヒト》SL7”の発売を記念いたしまして、NORC会員に限り、先着50名の方に特別価格にて頒布できることになりましたのでお知らせいたします。

定 価 145,000円

NORC会員価格 129,000円

関東の方は事務局にて、それ以外の方には直送させていただきます。(送料は無料)

申し込み先 〒105 東京都港区虎ノ門1-15-16 船舶振興ビル4階 (社)日本外洋帆走協会
TEL (03) 504-1911~4

(AM9:30~PM7:00)

同じく本誌で紹介いたしましたプレザーと小笠原記念Tシャツはおかげさまで完売いたしました。どうもありがとうございました。

なお、次の方々のプレザーが出来上がり、NORCに届いておりますので、ご来社をお待ち申し上げます。(大石、浜本、亀井、前田、大山、川島、柿崎、亀田、石井、志村、持丸、川辺、倉本、高橋、鈴木、黒田、斉藤、深田、池本、佐藤、の各氏)

また、Tシャツは6月25日に出来上がってまいりますので、入金いただきしだい郵送させていただきます。

振込先:住友銀行虎ノ門支店 普通口座 No.289150

(社)日本外洋帆走協会

料金:各サイズとも1枚2,000円

送料:1枚250円(枚数の多い方は250円×枚数分)

以上よろしく願い申し上げます。

帆走委員会よりのお知らせ

海上保安長よりレースのたびに下記のような指導を受けております。つきましては各レース委員長および参加各艇におきましては十分注意して下さいますようお願い申し上げます。

*

レースの実施に当たっては、参加艇の動静留意、安全指導および緊急事態発生時の早期対応について、海上保安当局の協力が必要と思われますので、各レース委員会におかれては、おおむね下記事項を、レース海域を管轄する海上保安部(署)に通報するようお願いいたします。

なお、レース海域の全部または一部が特定港の港域(港則法第3条2項)にかかるときは、あらかじめ港長(海上保安部長が併任されている)から港内行事許可(港則法第32条)を受けてください。

1. レース名、期間、スタート日時、コース、距離、参加予定隻数、レース委員長名、レース本部の所在地等(レースの約10日前までに通報。ただし、レースが一般船舶の安全航行に影響する恐れがあるときは約3週間前までに通報)
2. 参加各艇の艇名、セールナンバー、大きさ(全長またはトン数)、オーナー住所氏名、乗組員数、艇長氏名、通信要領等(艇長会議終了次第)
3. スタートの日時、隻数、参加人員、海上模様等(スタート終了次第)
4. 毎日の航海状況(各艇またはトップ艇、ラスト艇の位置、海上模様、リタイヤー艇その他異状の有無について情報入手次第)
5. 海難その他緊急事態発生時の速報(情報入手次第)
6. レース終了の日時、異状の有無(ラスト艇フィニッシュ次第)
7. その他海上保安当局から通報を求められた事項
8. 参加艇数が多いとき、並びにレース距離が短いときは前記2、4について適宜内容省略の可否を当局と打ち合わせすること)

関東支部帆走委員長変更 についてのお知らせ

帆走委員長 武市 俊

鎌田稔前帆走委員長が仕事等の都合により、このたびやむなくお辞めになることとなりました。長い間関東支部委員長としてご活躍いただき大変ご苦労さまでした。新たに外洋レースの経験豊富な〈FUJIII〉の

宮坂敬三氏が関東支部帆走委員長として5月21日の初島レースより手腕を振っていただけたこととなりましたので報告いたします。

新登録艇の紹介

セール番号、艇名、帆装、フリート、全長×水線長×巾×吃水、オーナー名、その他の順
☆印は会友艇

3168 ODYSSA T&P 44 矢ノ島マリーナ 13.4×11.0×4.25×2.40 小森一男

2600 ノーボディ タカイ30 碧南市新川港 9.34×7.10×3.20×1.855 山口幸一／艇名の由来：艇名を考えていたころ、ちょうどクルーの一人が深夜映画で「ノーボディ」という題名の映画を見て意味を調べたところ、「無名の人」となっていたので、クラブの新会員としてびったりだと思い、ノーボディに命名した。／抱負：今まで通りレース中心にやっていきたい。／クルー：ヨット歴3年目の杉浦政光、呉山義一、そして新人の松本久明。／NORCへの要望：一般参加の気楽なレースをたくさんやってほしいと思う。まだどのような組織かわからないので。

3184 BAKU (猿) タカイ-36 サントピア 10.78×8.100×3.600×2.000 大森一智、中川晴雄、堀田昌宏／艇名の由来：その名の通り、みんなの夢を食う、という意味もありますが、どちらかという、お金ばかり食べる艇かも……。／抱負：やはりレース活動を主にやっていきたいと思えます。／クルー：安田眞、葉田博昭、小松一雄、口分田眞、西之辻徹、柏元孝博、日高久夫、吉田典子、ほか多数の方々／NORCへの要望：いつも思うことですが、関東支部や本部主催のレースでは、島回りのオーバーナイトレースがかなりあるのに、内海支部主催の場合は、少々回数が少ないのではないかと思います。こちらでは、適当なコースを引ける海面が少ないとは思いますが、色々工夫していただきたいと存じます。

3188 SWEETBRONDY YOK-32 関西ヨットクラブ

2220 慎記郎 CAS-38 三崎マリーナ 11.42×9.414×3.78×1.980

3008 KAZAHAYAⅢ 横山30 島マリーナ 8.98×7.20×3.30×1.75 木下詔一

3207 DANCING PRINCESS CORVET 宝田 7.04×6.20×2.40×1.20 吉野熙道、広藤新二、石原隆文(共同)／艇名の由来：踊る小さな女王のように、軽やかに走らせたいとの希望から命名しました。／抱負：十分に時間をかけて練習し、レースに参加したいと思えます。／NORCへの要望：内海で島めぐりをしていると、漁師の人々がヨットに強い興味を示して

話しかけてくることがあります。お互いに理解しあえるような、よい企画を考えていただけたら……、と思えます。

3211 MERCUREⅢ ヤマハ30S 鬼崎 8.97×7.33×3.20×1.75 大矢隆、浅野正昭、小林豊二、品川誠、鈴木諭、富田孝、永井通雄、中川憲治、西川昭男、服部正裕、萩沢昌二、村嶋潔、吉田辰三(共同)／艇名の由来：〈MERCURE〉(メルキュール)もオセアン22からはじまって、やっと三代目になりました。／抱負：10年前に〈MERCURE I世〉を中心として8人の共同オーナーでスタートしたメルキュールグループも、メンバーがふえ、家族がふえて実に35人の大ファミリーになりました。どちらかというファミリーセーリングになりがちな気分をこの際グッとひきしめて、やるぞ今年も草レース。欲をいえば、パールレースで4個目の銀盃を手にしたいが……。

3195 蛙 ヤマハY21S 松山市和気港 6.43×5.30×2.48×1.30 池田仁／艇名の由来：艇名を考えていた時、偶然、蛙のお守りが目にとまり、それが非常にユーモラスではほえましかったから。／抱負：できる限り積極的にレースに参加したい。チームワークを大切に艇にしたい。／クルー：池田昇次、町田敏、橘哲一、藤本則彦、山崎、坂東

3208 MAMIⅡ ヤマハ30S シーボニア 8.97×7.33×3.18×1.75 吉野正統

2513 ブルーバルサー ハルモトスペシャル 江ノ島 5.9×5.5×2.4×1.3 黒田高正、前島良紀、池田政寛(共同)／艇名の由来：メンバーが電気関係のためバルスがひらめき、バルサーという星もあるし、良いだろうとなった。海の上なのでブルーを付けた。その後、陸上をバルサーというのが動き出したが、当方には連絡がなく、我々は承認していない。／抱負：なるべく大きな船に乗り替えず、小型艇の力を十分出すことを目標にして行きたい。(大きな船はスピードも出るし、お金も出る。それは最初から分かっている……。)／クルー：藤田利明／NORCへの要望：クラスⅦに対しても参加のチャンスのあるレースを増やして行ってほしい。

3187 TRYANGLEⅡ 木原30RC 名鉄マリーナ 8.99×7.24×3.20×1.85 長谷川隆男／クルー：池田博一、土井徳夫、辻脇久雄、房前一夫、福沢清美、ほか4名

OFFSHORE 第99号 昭和58年6月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
1部定価300円(郵送料45円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)
電話・東京03(504)1911-3 ㊦105
郵便振替番号2-21787

印刷 正進社印刷株式会社



海に挑む。

SWAROVSKI

HABICHT SL7×50

私の愛艇「MAY-KISS」では、スワロフスキーを使っています。

双眼鏡は海水や衝撃に強い、全天候型が安心してすね。

森野 久雄

スワロフスキーが生んだ、高性能・全天候型マリン専用双眼鏡。

ユニークな構造と機能的なデザイン、数々の特長を備えたハビヒトです。明るくシャープな視界を持ち、ショック吸収式に内蔵された光学システムは、製法特許取得。技術革新のトップを行く中央ピント合わせ装置、ボディは耐熱・耐寒(+70°C~-40°C)性を持ち、特殊ポリウレタン製によるソフトなグリップは操作性抜群。どんな条件下でも、あなたを疲れさせません。また、水深5mでの水圧にも十分耐えられる完全水密・防水型ですから、曇りやカビ、腐蝕、塩害等を一切シャットアウト。もちろん水洗いもできます。またひとつ、海の世界の謎が解けるかもしれません。

スワロフスキー〈ハビヒト〉SL7×50

¥145,000

●倍率7倍 ●対物レンズ有効径50mm ●瞳径7.1mm ●明るさ50.4(薄暮係数18.7) ●完全水密・防水型 ●耐熱・耐寒・耐腐蝕ボディ ●重量1,080g

(高級化粧箱入り)

※資料ご希望の方は、下記スワロフスキー・ジャパンまでお申し込みください。パンフレットをお送ります。

オーストリア工業グッドデザイン賞受賞。



SWAROVSKI OPTIK

製造元/スワロフスキー・オプティック社(オーストリア・チロル州)

輸入・総発売元/スワロフスキー・ジャパン株式会社〒105東京都港区浜松町1-18-14スワックスビル3F PHONE03-431-8280(代表)